事例調査結果の概要

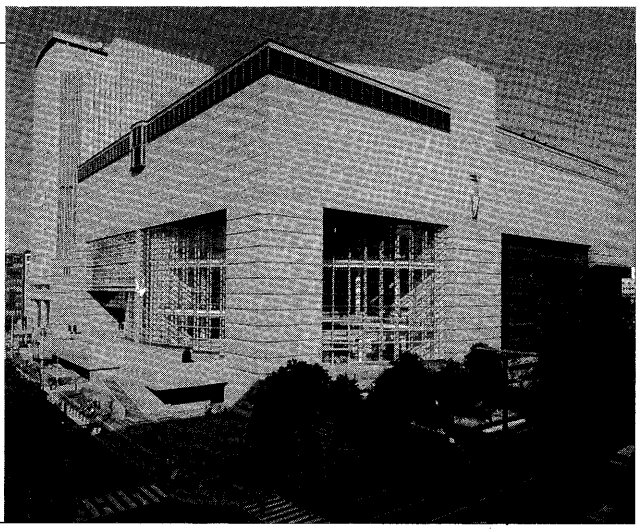
アンケート回答を得た美術館系文化施設9施設に対し、1997年1月～2月に調査員が訪問し、情報システムの担当者などにヒアリングを行った。

事例調査にご協力をいただいた施設は次のとおりである。

愛知県美術館
北九州市立美術館
国際デザインセンター
セゾン美術館
高松市美術館
東京都現代美術館
姫路市立美術館
広島県立美術館
広島市現代美術館
(50音順)

愛知県美術館

所在地：愛知県名古屋市東区東桜1-13-2
設　置：愛知県
運　営：愛知県



■館の概要

複合施設愛知芸術文化センターを構成する施設として1992年開館した。1955年に開館した旧愛知県文化会館美術館のリニューアル。所蔵作品展示と企画展に重点をおいて事業を実施できるよう施設を充実させている。20世紀を中心とする国内外の美術品や愛知県としての特色ある美術品の収集、保存、調査研究を中心に、年7回程度の企画展、収蔵作品展を行っている。また、美術団体や市民に作品発表の場としてギャラリーを貸し出している。愛知芸術文化センターは美術館のほか、愛知県芸術劇場(大ホール、コンサートホール等)や愛知県文化情報センター（情報コーナー、ライブラリー）などがあり、様々な芸術活動の場になっている。

■情報システムの概要

愛知県美術館の情報システムは愛知芸術文化センター全体の情報システムに組み込まれている。同システムは「芸術文化の教育・普及支援（多様化する住民の知的ニーズへの対応、情報探索支援、芸術鑑賞の場の提供)、芸術文化センターの利用促進（催事･施設利用などの案内･告知、芸術との出合い･ふれあいの場の演出)、運営管理業務の効率化（情報提供支援、学芸員の調査・研究業務支援、施設管理業務支援）を目的に構築され、1992年の開館時から稼働している」(同館資料より)。

システム全体は、来館者向けの情報サービス、館外情報提供、業務支援に大別されている。サブ・システムとしては、美術作品情報データベース、書誌情報データベース、ハイビジョンミュージアム、ビデオルームシステム、ビデオライブラリー、マルチビジョン、館内CATVなどがある。

1．美術作品情報データベース

収蔵品管理システムを兼ねた美術作品情報データベースは、画像情報と作品に関する情報を蓄積し、学芸員などの求めに応じて検索・提供するものである。

美術作品情報データベースに画像として入力してあるデータは美術館所蔵の約3,200点のうち約150点。学芸員ならばだいたいどのようなものかがわかっているため、画像入力については余り積極的ではない。また、作品情報のうち修復情報については、どのように扱うかの国際的な標準化がなされないとなかなかデータベース化できないとのこと。

芸術文化センター全体でこのようなシステムを構築した点について学芸員は「施設管理

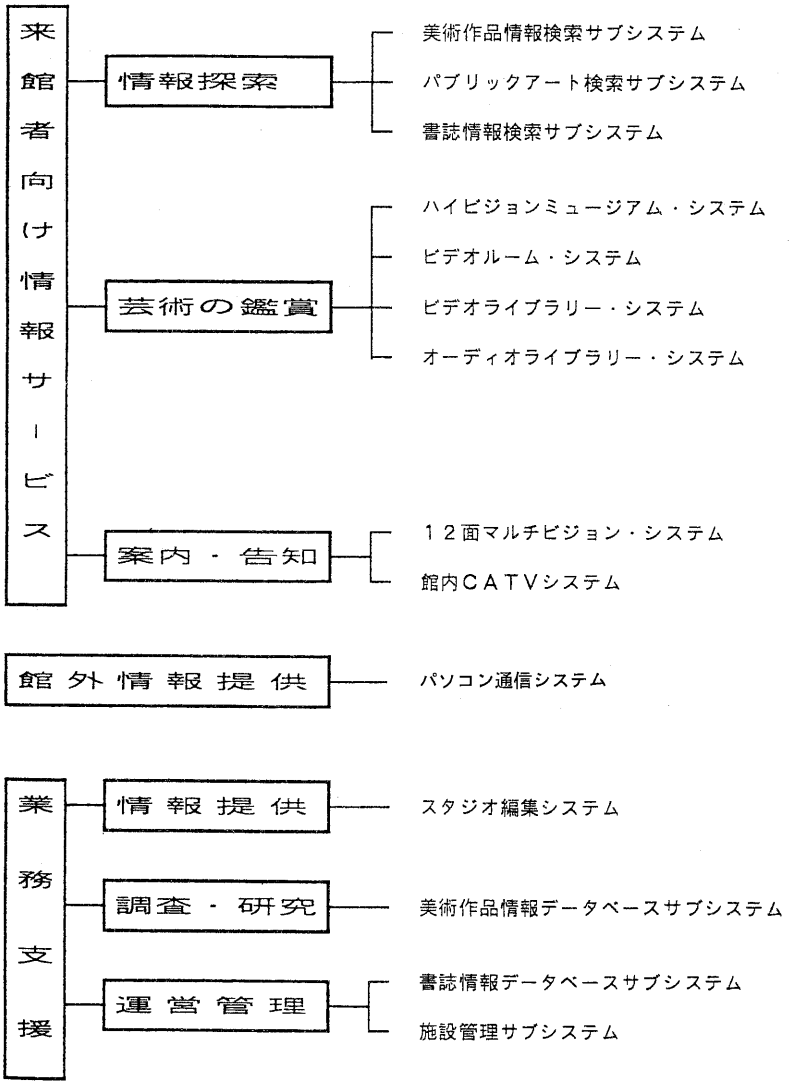
のようなシステムでは全体のことがわかり有効である」が、収蔵品管理システムと展示・映像系システムのような場合は「それぞれの特性を生かしたものが望ましいのではないか」と述べている。システム開発にあたっては開館に先だって県が研究会を設け議論している。

2．美術作品情報検索システムは、公開系で、収蔵品を中心とした美術作品や作家情報を静止画象と文字情報を組み合わせて検索するものであり、上記1のシステムから情報を得ている。

3．書誌情報データベース

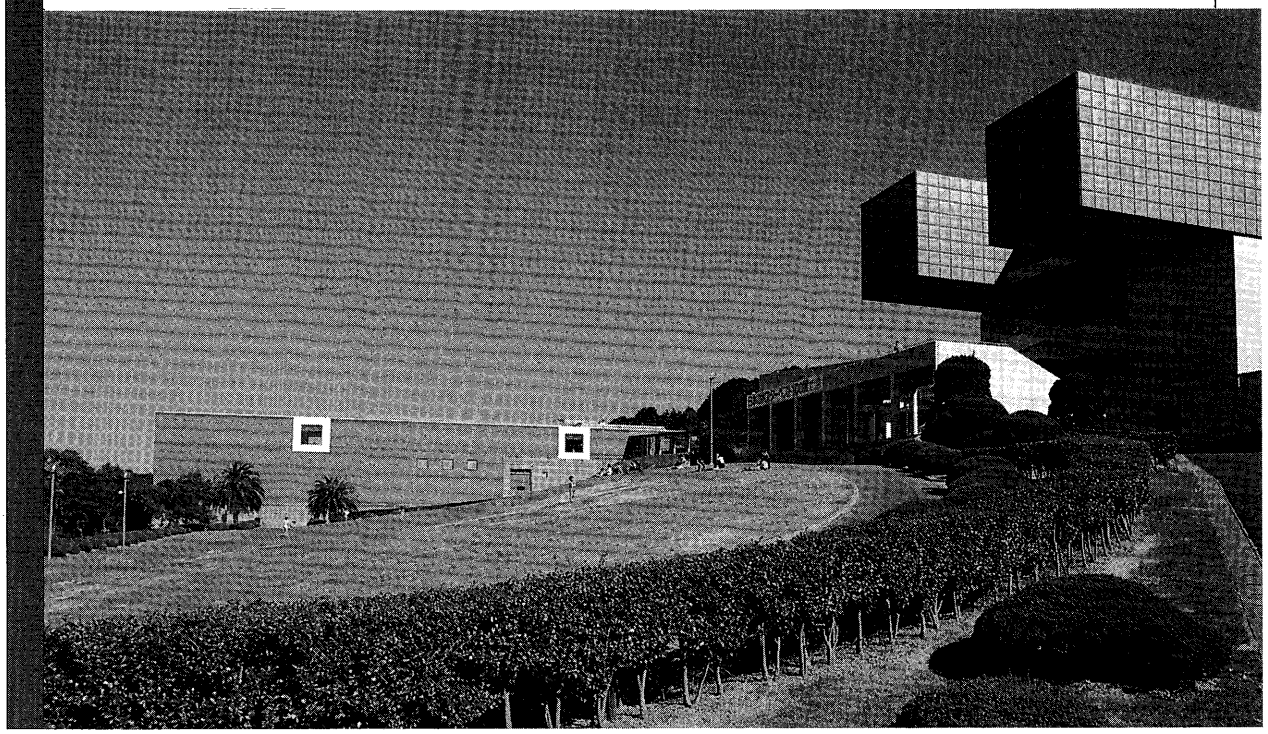
文化情報センターの蔵書は約54,000冊。このほか11,000余りの楽譜を所蔵する。来館者は1階アートライブラリーおよび地下2階のアートプラザに設置されたパソコンで検索できる。館内のみならず、芸術文化センターの一部門である愛知県図書館ともネットワークで接続されている。

芸術文化情報システムの概要



北九州市立美術館

所在地：福岡県北九州市戸畑区西鞘ケ谷町21-1
設　置：北九州市
運　営：北九州市教育委員会



■館の概要

北九州市を一望するの高見丘陵に1974年開館。地域に関する美術品だけでなく幅広い分野の美術品を収集している。また、市民生活に密着した生きた美術館を目標にしており、絵画、版画などの実技講座や美術ボランティアによる美術案内など、市民の教養の場・文化活動の中心となる場となるよう運営している。収蔵品は油彩、版画、デッサン、中国美術、浮世絵など約6,000点。年に数回の企画展を実施するほか、ミュージアム・コンサート、土曜講座などを開催。約1,500人の友の会会員を有し、ニュースレターとして「美術の森」を発行している。

■情報システムの概要

1．収蔵品管理システム

各地の美術館で比較的よく使われている既存のシステムをカスタマイズし、1992年に構築したシステム。市販のパソコンとリレーショナルデータベースソフトからなる。システム構築までに館で作成してきた収蔵品調書を土台に画面構成やデータ内容を発想したため、一つの画面内に一つの収蔵品のデータをすべて表示するようになっている。そのために「画面が煩雑になってしまっている」（館職員）。また、導入した直後にパソコンの性能が大きく変わりシステムが陳腐化してしまった。OS（オペレーティングシステム）が古いこともあり、データ処理時間がかかる。紙の調書をくった方が早い、とのこと。

収蔵品のデータには画像を添付する機能があるが、処理速度が遅く、また画像原稿不足

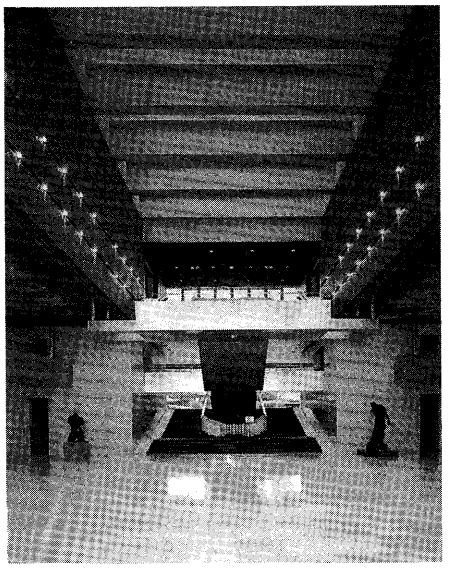
のため主要作品以外データ入力していない。「システムを開発したところは収蔵品調書を電子化することについては一定の技術力をもっているようであるが、画像処理については改良の余地がある」（館職員）。

そろそろシステムの更新時期にきているが厳しい市の財政状況を反映して更新の見込みは立っていない。

2．インターネットへの取り組み

市がサーバーを設置しホームページを提供している。市の職員にやらなければならないという意識はあるようだが、「実際は業者にまかせきりで取り組みが中途半端とのこと」（館職員）。館に関する情報については市内のボランティアが作成している。コレクション情報、展覧会情報、館の案内情報などが中心。画像をふんだんに使用しているため、少し重いのが難点。4月から公式に公開し、徐々に充実したホームページを目指したいという。

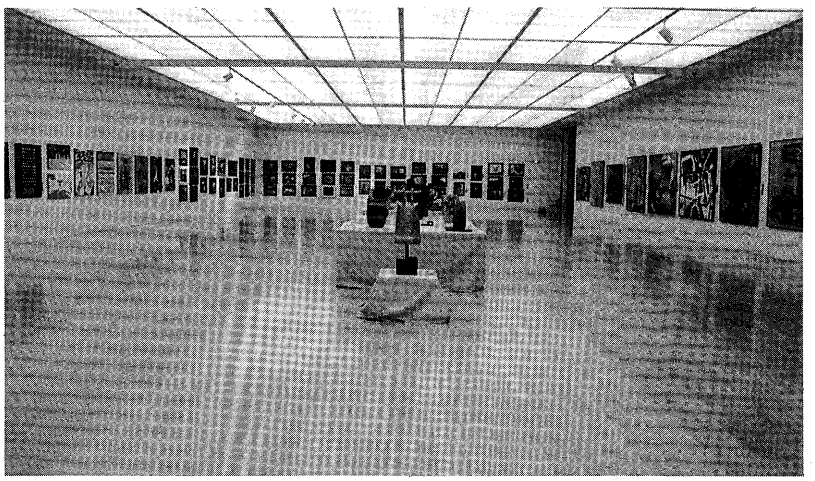
また、著作権について館の担当者は、インターネットなどで作品を公開することについては著作権の問題がある。図録やチラシなどについては、現存作家の多くが広く知ってもらうということを望むため、特にクリアしなくても問題が余り発生しないが、物故者の場合、遺族との間で問題になる可能性がある。こうした点についてどのように考えていくかは今後の議論が必要であろう、と述べている。



■エントランスホール

3．そのほかのシステム

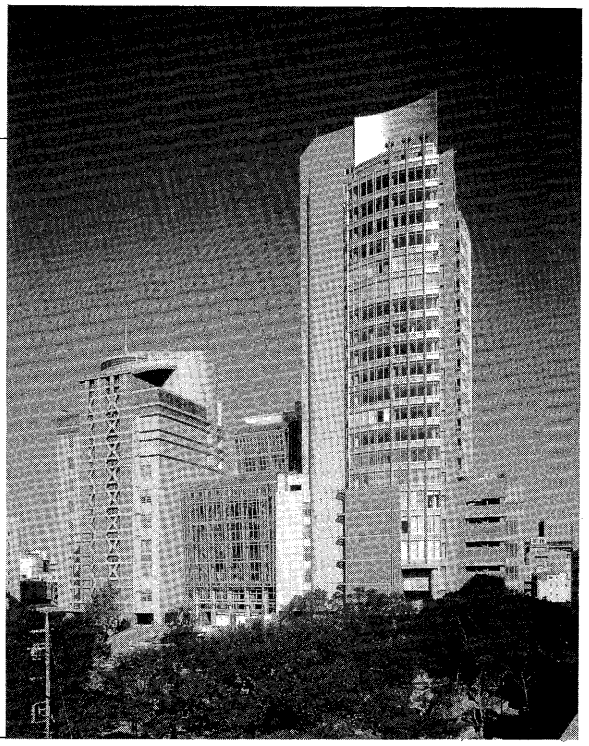
館には来館者が利用できる図書館がないため、パソコンで内部の図書を管理している。また、市の財務処理システムの専用端末が設置されている。



■企画展示室

国際デザインセンター

所在地：愛知県名古屋市中栄区3-18-1
設　置：株式会社国際デザインセンター
運　営：株式会社国際デザインセンター



■館の概要

1985年に市制100周年を記念して名古屋市で開催された世界デザイン会議および世界デザイン博覧会を受け、デザイン集積基地をめざす名古屋地域において本格的にデザインに取り組む場として構想され、愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所が中心となり設立した第三セクター方式による法人。

施設としては、名古屋市の中心部である栄区の名古屋市立中央高校跡地再開発地域に複合商業ビルとして建設された。デザインの育成、創造、交流を柱に、セミナー・展示会の開催、コンサルティング、研究開発、情報収集、出版・イベントなどの事業を行っている。同センターには、デザインミュージアム、ミュージアムショップ、デザインホール、デザインギャラリー、セミナールーム、デザインライブラリ、デザインラボ、ショッピングモールがある。

■情報システムの概要

同センターの情報システムは、デザインライブラリに設置された来館者用のデータベース検索用端末、共同研究開発室に設置されたデザイン作業を行うワークステーションやパソコン、事務室に設置された情報提供やデータベースサーバーを館内ネットワーク(LAN)で接続した分散型のシステムである（図参照)。

デザイン分野の民活法の施設としては同センターが初めての施設であることから「通産省の指導などによりオーバースペックなものにならざるを得なかった。事業全体のなかでのシステムの位置づけがやや曖昧になっている」（担当者）とのことである。

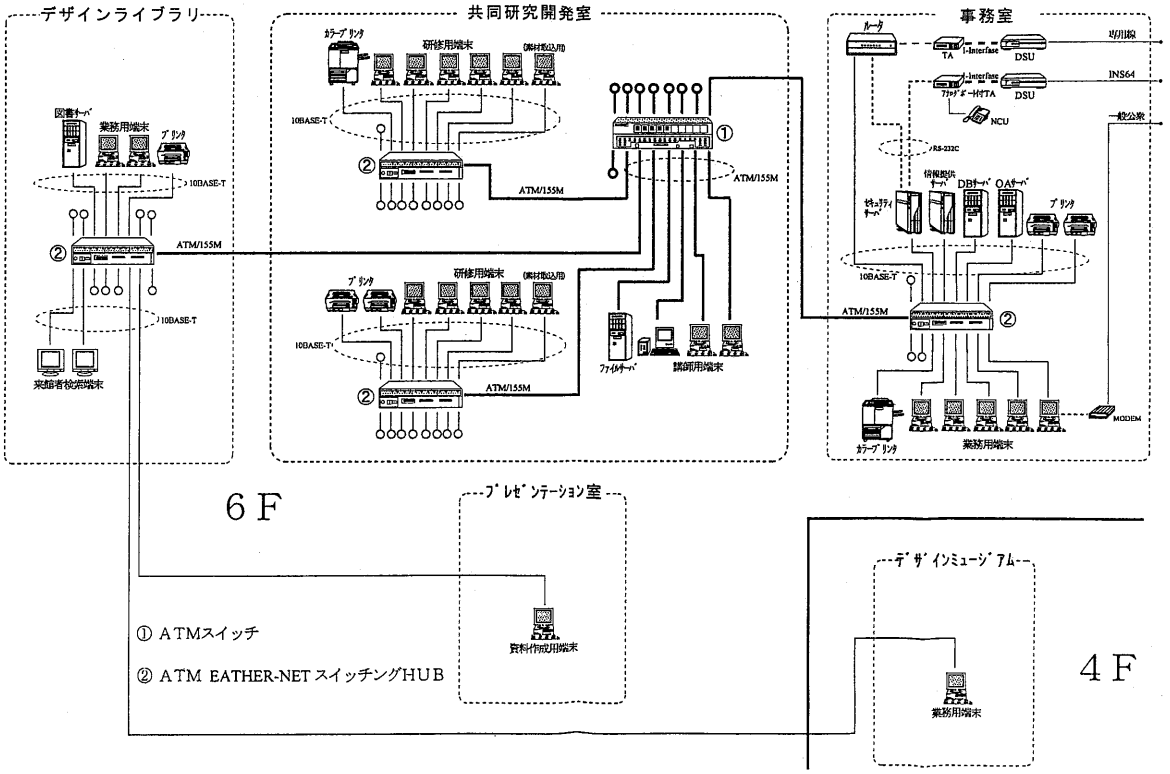
現在、同センターではデザインデータベースの構築を進めている。愛知県内では名古屋市立大学芸術工学部などを中心にデザイン関係の研究・教育機関が充実してきており、地域のデザイン関係の企業、若手経営者、デザイナー、振興・教育機関などの情報をインターネットなどを通じて内外に提供していくための情報収集を行っている。

また、デザインセンターでは10室のインキュベーション用のオフィスを賃貸しておりすべてのオフィスにLANの設備が引かれている。これを用いてセンターのデータベースを

活用している企業もいる。

デザインミュージアムの展示系システムは、デザイナーに焦点をあて、ミュージアム所蔵の作品の解説を映像などを用いたマルチメディア情報により提供するものである。システムはパソコンと市販のオーサリングソフトを用いたもので実物の展示と合わせて立体的に作品の理解を助けるものとなっている。

国際デザインセンター　事業支援／管理運営システム　情報系ネットワーク構成



セゾン美術館

所在地：東京都豊島区南池袋1-28-1
設　置：株式会社西武百貨店池袋店
運　営：株式会社西友

■館の概要

1975年に西武美術館として開館、1989年に現名称に変更された。収蔵品を持たない美術館として東西の著名作家の作品展、現代美術に関わる企画展示などを行っている。西武百貨店池袋店、カルチャーセンター、書店などに隣接しており、来館者の層は幅広い。公立美術館と異なり啓発といった機能は持たないが、ギャラリートークなどを通じて「一緒に考える」ということに力点をおいた活動は行っている。友の会「SMA メンバーシップ」は1,800人を有し、「スマ・インフォメーション」「アイザイ」「セゾン美術館　BIENNIALREVIEW」などの情報誌を発行している。

■情報システムの概要

1．展示に関する参考情報の提供システム

収蔵品を持たない美術館であることから、収蔵品管理システムなどを必要としない本館

では、ハイビジョンを用いた展示に関する参考情報の提供システムを利用し、来館者への情報提供を行っている。同システムは企画展の内容を伝えることを目的としたシステムで、企画展に先だって展示内容の予告を画像情報として写しだすもの。そのほか、ハイビジョンミュージアムのソフトを展示している。

同館では、ソフト開発をメーカー、出版社などと共同で行っており学芸員がソフト制作に関わっている。

2．作品のデータベース化について

作品のデータベース化について館職員（事務局長）は次のように述べている。

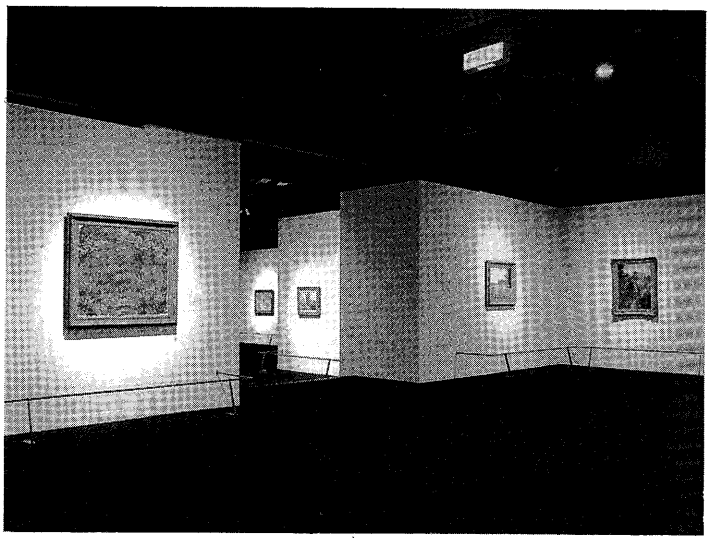
「企画展ごとに作成している図録に用いた写真（ポジ原版）をデジタル化し、データベースを構築したい意向とのことであるが、著作権の問題をクリアすることが難しくできない。また、企画展の場合、貸与者（団体）が様々なため、全員の承諾をとるのが非常に難しいという問題点がある。セゾン美術館は、公立美術館と違って啓蒙型ではなく、地域の人々に心の豊かさを提供していきたい。その際、鑑賞者にどう見せていくかが課題である。その方法として考えているのが鑑賞ガイド的なデータベース。たとえば、カンディンスキーの作品そのものは画像化できなくても、その住環境や作品制作の背景などが検索できるデータベースがつくれないかと考えている。

また、日本では映像や美術作品などのアーカイブに対して国としての取り組みが遅れているが、データベースをどのような目的で作成するのかに対する基本的な考え方が十分に議論されていない。

作品をインターネットなどを通じて提供していくことについて、「現在の日本では、著作権の問題から欧米の美術館のように、作品を画像にすることが現状では困難である。日本の美術館では今、文字情報を中心に、インターネットで情報提供しているが、本館としては情報としての美術（作品）であってもその作品（美術）を忠実に画像化をし、的確で正確な提供を行ってまいりたい」。

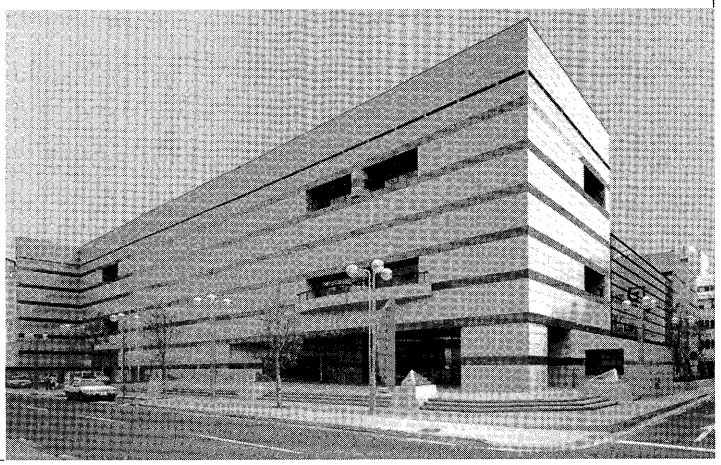
3．その他のシステム

パソコンを利用して財務処理、チケット管理、友の会関係の事務処理を行っている。



高松市美術館

所在地：香川県高松市紺屋町10−4
設　置：高松市
運　営：高松市教育委員会



■館の概要

回遊式庭園で名高い栗林公園内にあった高松市美術館の老朽化にともない、1988年に市内の中心部に新築・開館した。戦後日本の現代美術（油彩、彫刻）、20世紀以降の世界の美術（版画）および香川の美術（漆工・金工）を柱に収集している。所蔵品は約1,100点。企画展を年に6回程度行っているほか、市中心部にある立地をいかして、各種の実技講座の開設、講堂や市民ギャラリーでの催し物などを行っている。また、館内には美術図書やビデオライブラリーがあり、約2万冊の蔵書を有する。

■情報システムの概要

1．美術情報提供システム（展示・映像系システム）

高松市美術館の情報のみならず全国の美術館の情報を来館者や高松地域の市民に提供する美術情報センター機能を果たすことを目的に、1991年2月にＮＴＴに委託してシステムを構築した。同システムは、第3次高松市総合計画の「芸術・文化活動の推進」のなかで「芸術・文化情報の提供」を具体化する事業の一環として位置づけられている。

システムの概要は図に示したとおり。美術愛好家が関心を寄せる公立・私立の著名美術館86館に毎年3月、年間展覧会情報の提供を依頼し、文書により回答された情報と高松市美術館の年間展覧会情報や施設案内を館の担当者がパソコンにより入力する。その情報を美術館エントランスホールおよび市役所に設置されたキャプテン端末を用いて利用者がアクセスする。機器はリースで調達し、現在は再リースの期間である。

キャプテンを用いた類似のシステムが全国の美術館に普及しておれば、電話回線によるデータ収集が可能になり、利用者は希望館の情報をリアルタイムに入手できるが、他館においては異なったシステム等に情報提供をしているため、高松市美術館だけのシステムとして手作業による情報の収集・入力を続けており、事務量がかなりの負担となっているとのことである。

今後の取り組みとしては、全国美術館情報とは独立したシステムとして、1998年度に、内部的な収蔵品管理システム（収蔵品データベース）と来館者への美術映像情報提供シス

テムを兼ねたシステムの構築を予定している。

館担当者によれば、計画されているシステムでは、ハイビジョンを用いた画像情報と貸し出し履歴などを含む収蔵品管理情報を対象とし、学芸員の管理用には全ての収蔵品の情報を蓄積、来館者への展示用には点数を絞り込んだ画像情報を蓄積する。1997年度から著作権がクリアされたものから逐次データの入力を行う。現在は学芸員6名のうち2名がかかわっているが、1997年度には全員で基本データの作成にかかることにしている。また、将来的にはインターネットなどで情報を提供していくことも考えていきたいとの意向である。

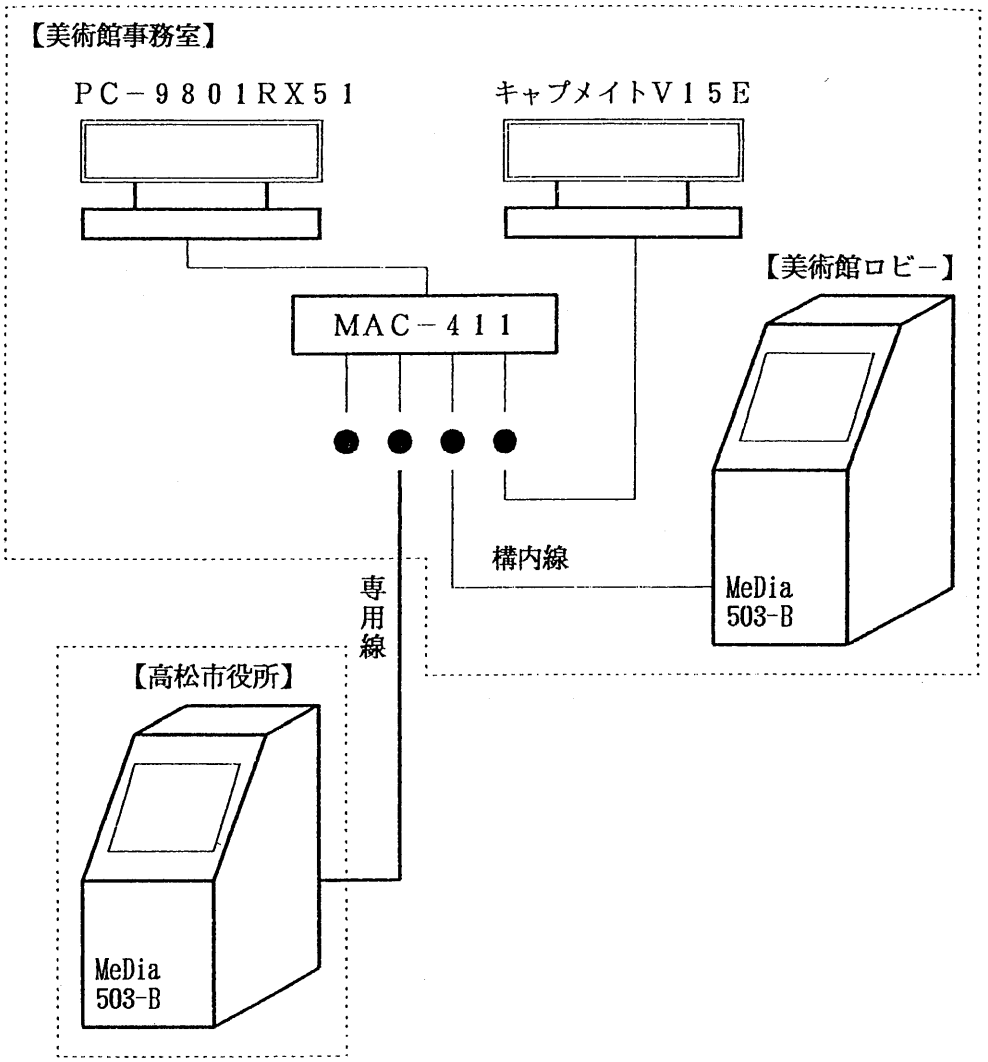
2．図書検索システム

1988年8月の開館時に図書検索システムを構築し、図書室に利用者用の端末を設置した。しかし、当時のＯＡ機器能力等では入力に手間がかかったため、約2万冊の蔵書のうち500～1,000冊分の情報しか入力しておらず、現在はほとんど利用されていない状況であるとのこと。今後の対策としては、収蔵品データベースシステムに当システムを組み入れ、来館者への閲覧サービス向上に努めるとのこと。

3．その他のシステム

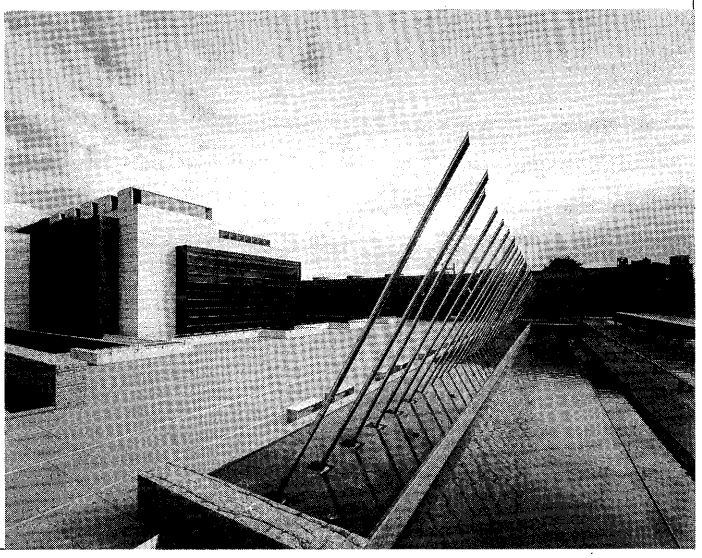
現在約1,600人の会員を有する友の会と来館者の管理用にパソコンを利用している。また、財務処理用としては市役所と接続された全庁的な内部処理端末が導入されている。

システム概略図



東京都現代美術館

所在地：東京都江東区三好4-1-1
設　置：東京都
運　営：財団法人東京都教育文化財団



■館の概要

1995年、都立木場公園の一角に開館。優れた美術作品に接する機会と創造・交流活動の場を広げ、個性豊かで自由な首都東京にふさわしい文化を創造・発展させることをめざしている。現代美術館として国内最大級のスペースを有し、美術図書室、ハイビジョンシアター、ビデオブース、画像検索システムコーナーなどからなる美術情報センターがある。美術図書室には近・現代美術に関する図書資料を中心に約70,000冊の美術関係図書、展覧会カタログ、2,000タイトルの美術関係雑誌が収められ、美術専門図書館として一般に公開されている。常設展示は、約3,600点の収蔵作品のうち約130点を展示し、年4回の展示替えを行う。企画展は年6回程度。

■情報システムの概要

1．資料情報システム

東京都現代美術館では設立にあたり特に美術に関する情報機能が重視された。美術作品や作家に関する情報や文書、映像資料などを多角的に収集しコンピュータやAV機器などにより市民や研究者に提供することを目的に情報システムが構築された。

システムは、美術館職員向けのシステムと一般来館者検索システムからなり、美術作品情報、作家情報、図書資料情報、展覧会カタログ情報、逐次刊行物情報などを蓄積・提供している。システム構成は図に示したとおり、ホストコンピュータを中心としたネットワーク型のシステム。美術情報についてはホストコンピュータのハードディスクに作品の情報をフルカラーで蓄積し、館内のパソコンで検索・表示させる。職員向けのシステムと来館者用システムは同一データベースを用いているが、アクセスの資格を設定することで扱えるデータの範囲を分けている。

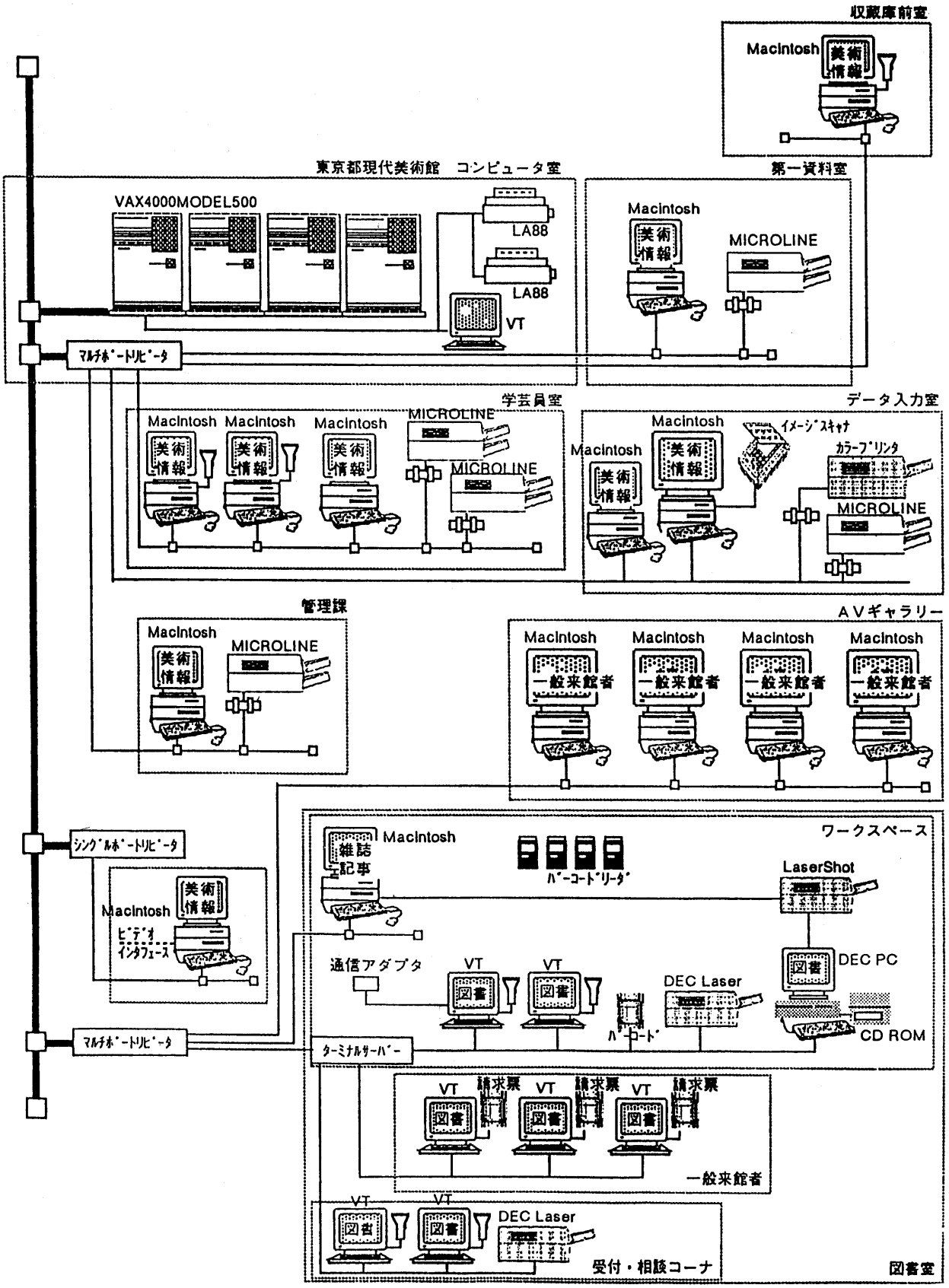
データベースに収録している画像の点数は約4,200点、作品文字情報は約9,000点。画像データ化するための著作権のクリアリングについては、著作権者に対して美術館内での利用に限るという条件で通知を送付した。そのため、館が提供しているインターネットのホームページでは画像情報を提供していない。

システムの開発にあたって基本設計以後は学芸員の声も聞きながら行ったが「十分に反映できたかどうかは疑問、システムの基本設計から発注者がイニシアチブをとれるかが課題」(館職員)。館内ネットワークは容量の大きなものを用いているが、検索から表示されるまでの速度が遅く、利用者にストレスがかかることは否めない。最終画面までのアクセス数が年間70,000回程度の利用となっている。システムの運営費としてはリース料を中心に年間1億円程度とのこと。

2．その他のシステム

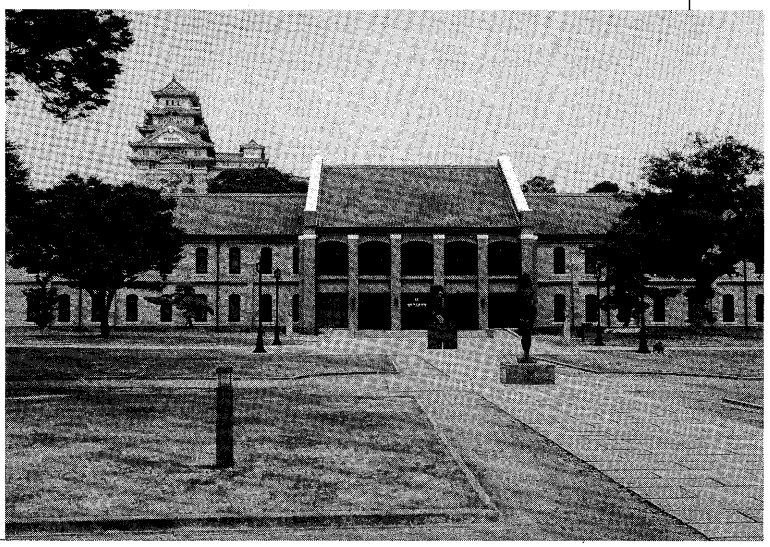
都の財務システムの端末、パソコンによるチケット管理システムのほか、東京都の広報・施設案内システム「とみんず」が設置されている。

システム構成


収蔵庫前室
Macintosh
美術情報
東京都現代美術館　コンピュータ室
VAX4000MODEL500
LA88
LA88
VT
第一資料室
Macintosh
美術情報
MICROLINE
マルチポートリピータ
学芸員室
Macintosh
美術情報
MICROLINE
データ入力室
イメージスキャナ
カラープリンタ
管理課
AVギャラリー
一般来館者
シングルポートリピータ
ビデオインタフェース
ワークスペース
雑誌記事
バーコードリーダ
LaserShot
通信アダプタ
VT
図書
DEC PC
DEC Laser
CD ROM
ターミナルサーバー
請求票
一般来館者
受付・相談コーナ
図書室

姫路市立美術館

所在地：兵庫県姫路市本町68－25
設　置：姫路市
運　営：姫路市教育委員会



■館の概要

姫路城を囲む姫山公園の一角、特別施設地内にある。建物は1905年（明治38年）に旧陸軍の軍用倉庫として建てられた赤煉瓦造りの建物を改装したもの。開館は1983年（昭和58年）。

松岡映丘、和田三造など郷土出身の作家を中心に、近代絵画、刀剣、陶芸などを収集。最近はマグリットなどのベルギー美術のコレクションも特徴となっている。常設展、企画展ともに年間6回程度を開催。ほかに、屋外や展覧会場でジャズや室内楽のコンサートを行っており、美術館を楽しんでもらうことに力点を置いている。

また、友の会会員が約1,000名おり、会を通じてボランティアを組織、約180名のボランティアがいる。企画、事務補助、編集、研修の各班に分かれて自主的に活発な運営を行っている。

■情報システムの概要

1．映像系・展示系システム

1994年2月に、姫路市が通産省の「電源地域情報基礎整備モデル事業」の指定を受けたことを機に構築された。姫路市教育委員会の一組織である「城郭研究室」（城郭公園内に立地）と姫路市立美術館をISDN回線で結び、城郭研究室で入力した姫路城関連の情報を美術館に設置した機器で見ることを可能にしたシステム。同美術館は、国宝の姫路城に隣接しており、このシステムによって美術館の来館者を姫路城に誘導したり、姫路城についての情報を得られるといった利便性の向上に結びついたとのことである。

システム構成は図に示したとおりである。城郭研究室のサーバーに蓄積した情報と同美術館に設置したレーザーディスクプレイヤーからの映像をそれぞれのディスプレイで表示する。美術館独自の画像情報をスキャナーで入力してサーバーに蓄積し、それぞれのクライアントで検索・表示することも可能である。

しかし、システム構築の初期費用については国から一定の補助があったものの、構築後の維持管理費は市の負担であり、美術館の情報の入力はほとんど行っていない。こうした維持費の負担と費用対効果の点から、教育委員会は、このシステムは一定の成果をおさめ使命を終えたものとして1997年3月に廃止する方針を打ち出している。

「システムを構築した当時、美術館内に収蔵品管理や展示・映像系システムの構想はあったが、システム構築にあたってモデル事業であることが前面に打ち出され、学芸員の意見が十分反映されていない。そのために館として十分に活用できていない」と館職員は指摘している。

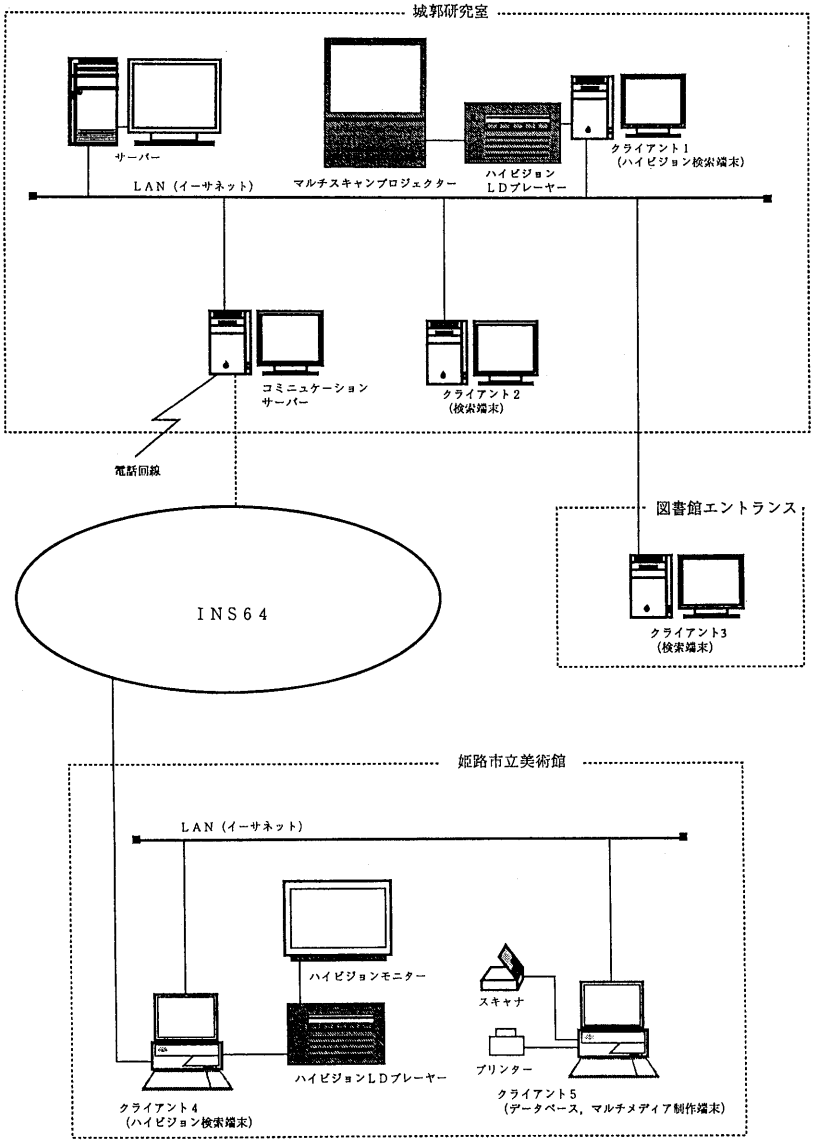
現在、収蔵品などの情報はカードで整理しており、情報機器によるシステム化は行っていないが、コレクションもしだいに増えているので収蔵品管理システムやそれと連携した展示・提供系システムを検討したい意向はあるが、財政状況や著作権の問題から具体的な計画は未定とのことである。

一方で、市民の有志が美術館の広報に協力した形でインターネットを通じて企画展などの情報を提供している。まったくのボランタリーな協力であるが、著作権や情報への責任負担の問題から、一般的な施設案内以外のたとえば企画展などの情報については開催期間中だけ流すことに限定して認めている。

2．その他のシステム

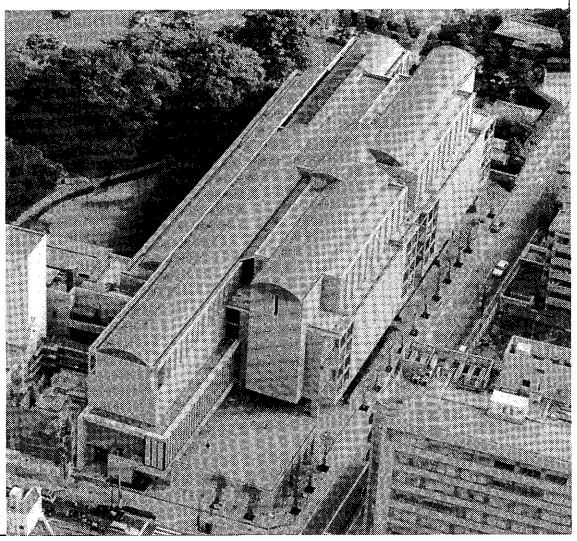
館で利用しているシステムはこのほか、市役所の情報管理担当課のコンピューターと接続した形で利用している財務会計処理のシステム、市役所との間で訃報などのお知らせ文書のやりとりをパソコン通信で行っているシステムがあるがいずれも市のシステムのなかに組み込まれているものである。

システム全体構成図



広島県立美術館

所在地：広島県広島市中区上幟町2-22
設　置：広島県
運　営：財団法人広島県教育事業団



■館の概要

1968年に開館した広島県立美術館を全面的に建て替え、1996年に開館した。広島市の中心部に位置し、縮景園に隣接している。収蔵品は、広島県ゆかりの作家、日本・アジアの工芸作品、1920年から30年代の美術作品を柱とする約3,400点。平山郁夫、ダリ、トルクメニスタンの工芸品などが中心。常設展示のほか、企画展示、美術図書室、講堂での催し等をとおして市民が美術にふれる機会を提供している。また、作品発表の場としてのギャラリーを設け、創作活動を支援している。

■情報システムの概要

1．収蔵品管理・展示システム

約3,400点の収蔵品を管理する管理系システムであるとともに、来館者に収蔵品をハイビジョン画像で提供する展示系システム。

システム構成は図に示したとおり。収蔵品のデータおよび画像データを蓄積したサーバー、学芸員用機器、館内の図書室に設置した展示用機器を館内ネットワークで接続している。ただし、画像データは更新頻度が少ないため、個別の機器のハードディスクにも格納し、通常はこちらで情報提供を行っている。テキストデータは学芸員用の機器から入力、サーバーに蓄積している。

収蔵品3,400点のうち2,500点ほどの画像データが蓄積されている。画像データは開館に先だって専門業者に入力を委託し、テキストデータは収蔵品台帳や作家台帳をもとにすべて学芸員が作成し、入力を外部委託した。継続的なデータ入力は学芸員が行う。

画像データは管理用にはサムネールを用いているが、「展示企画を練る際に参考になる」（館職員）。

来館者は展示ブースに置かれた機器で時代や分野などにそって検索し、特定作品の静止画やデータを見ることができるが、画面デザインが利用者に不評なため、現在作り替え作業中とのことである。

著作権については、国内の作家は個々に、海外の作家は著作権協会を通じてすべて了解

をとったうえでデータ入力を行っている。

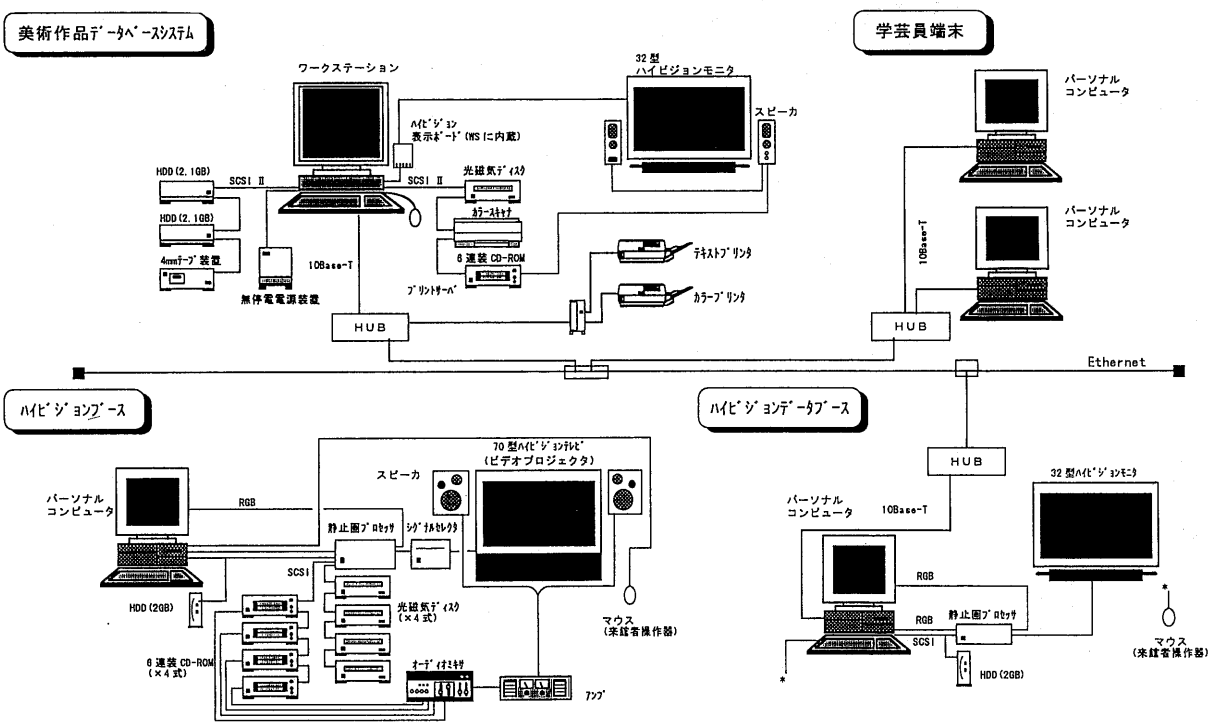
システムの構築にあたっては、館の設計を行った設計会社の協力を得ながら学芸員が仕様を検討し、機種・ソフトを決めず、機能面について詳細に示した仕様書を作成したうえで入札を行ったため「費用対効果に優れたシステムが構築できた」(館職員)。

収蔵品データベースには旧所有者、購入金額などの部外秘データが入っているため、現在は非公開であるが公開のガイドラインを検討しているとのこと。研究者などに限定して利用を許可することもあるが、開館後間もないこともあり、実績はない。最近の美術館における収蔵品データベースや共通データベースの動きについて館の担当者は、ハードウエアやOSの違いはたとえばHTMLやSGMLなどの文書の標準化により解消できるかもしれないが、館の特性が異なるためデータベース化が進むかは疑問である、と述べている。

2．その他のシステム

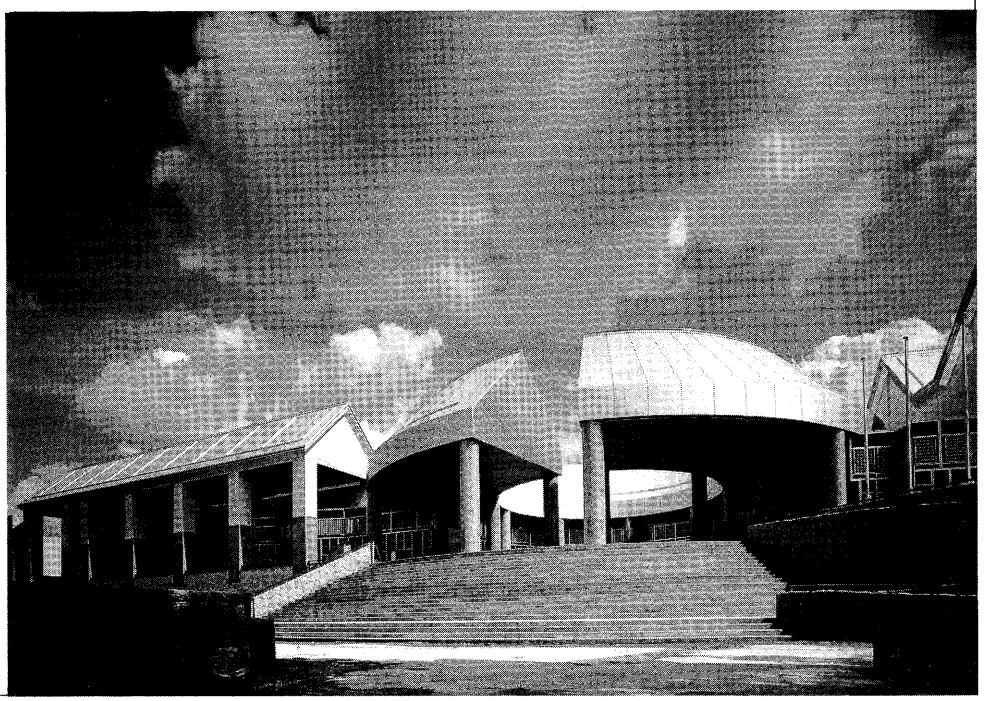
講堂にハイビジョン機器が置かれている。また、県の財務処理システムの端末が設置されている。

システム系統図概略



広島市現代美術館

所在地：広島県広島市南区比治山公園1-1
設　置：広島市
運　営：財団法人広島市文化振興事業団



■館の概要

市制施行100周年・広島城築城400年を記念し、また、被爆都市広島の戦後を現代美術を通して問い続けることを意図して1989年に開館した。公立の現代美術館としては先駆けとなった美術館。作品の収集方針としては、第二次世界大戦以降の現代美術の流れを示すのに重要な作品、ヒロシマと現代美術の関連を示す優れた作品、将来性ある若手作家の優れた作品、の３点を掲げて国内外の作品の収集に努めているとしている。年3回の常設展示替え、年に6回程度の特別展を行っている。また講演会、講座、パフォーマンス、コンサートなどの教育普及活動にも力を入れている。収蔵品は608点。

■情報システムの概要

１．収蔵品管理システム

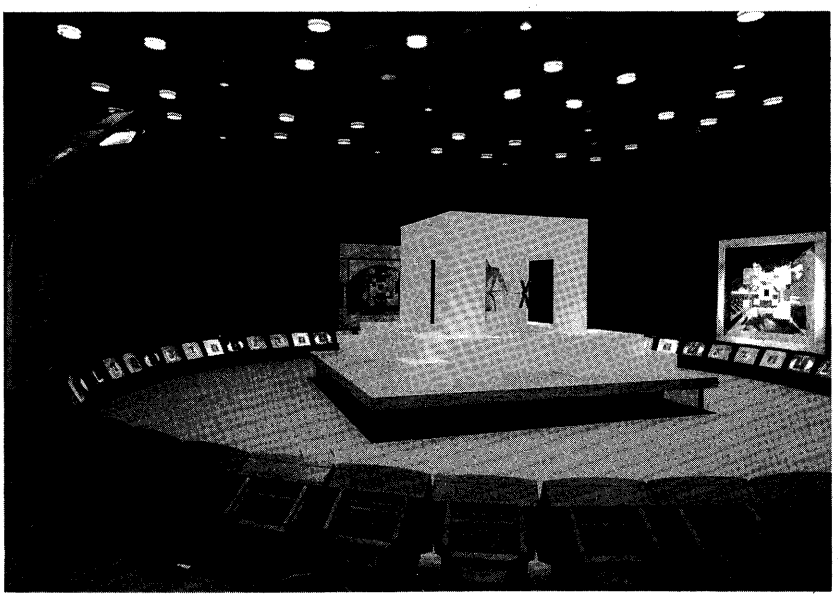
システムとしては、既成のシステムをカスタマイズして構築した。市販のパソコンとリレーショナルデータベースソフトを利用している。コレクション608点のうち半分が入力されている。データは、画像、タイトル、作者、技法、数値的データなど。貸し出しや修復履歴は、収蔵品点数が少なく、紙による管理で十分なので入力していない。もともと開館当初に購入する作品の候補を管理するものとして構築したため、収蔵品の管理は付随的であり、学芸員の利用は多くない。

２．施設案内、催し物案内

広島市文化振興事業団が市内にあるアステールプラザにサーバーを置いて管理しているものと、館が独自で行っているものの2種類がある。

事業団が行っているシステムはいわゆるキャプテンシステム。

館独自のものは、ワークステーションを利用したもので、画像情報とその作品の解説などを表示するもの。館内に展示用の機器が3台設置され、受付に設置された機器にはプリンタも置かれている。入力用と展示用の機器はネットワークで結ばれている。10年前のシステムであることもあり、画像が表示されるまでに1分程度かかるためか利用者は少ない。更新時期が迫っているので新しいシステムを検討したが予算獲得ができなかった。担当者は「バーチャルミュージアム的なシステムの提案もあるが、美術館でこの種のシステムが必要かどうかが疑問」と述べている。



■ミュージアムスタジオ